

日本株投資戦略12月号

-年末到来。仕込みの時期か-

令和3年12月1日

アイザワ証券 市場情報部

2021年12月1日発行／審査番号：211201-B1

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa

- ・ 12月の主なイベント
- ・ 11月の株式市場
- ・ 11月の主要指数の月間騰落率
- ・ 日経平均と投資主体別売買高
- ・ 日経平均予想PERとドル円相場
- ・ 今月のストラテジー
- ・ 今月の銘柄
 - ・ TDK
 - ・ ルネサスエレクトロニクス
 - ・ SUMCO
 - ・ TOWA
 - ・ 芝浦メカトロニクス
 - ・ 三井住友フィナンシャルグループ
 - ・ SOMPOホールディングス
 - ・ 住友不動産

12月の主なイベント

日本		海外
1日 水	法人企業統計、11月国内新車販売台数	11月米消費者信頼感指数、11月米ADP全米雇用リポート
2日 木	11月マネタリーベース	11月米ISM製造業景気指数、10月米建設支出、10月米コア圏失業率
3日 金		11月米雇用統計
6日 月		
7日 火	10月景気動向指数	7-9月米コア圏GDP、10月米貿易収支
8日 水	10月経常収支、7-9月GDP	
9日 木	法人企業景気予測調査、11月マネーストック	11月中国消費者物価指数、10月OECD景気先行指数
10日 金	11月企業物価指数	米10月CPI
13日 月	日銀短観	
14日 火	10月鉱工業生産指数	10月米コア圏鉱工業生産指数
15日 水		12月米ニューヨーク連銀景気指数、11月米小売売上高
16日 木		米FOMC（15～16日）
17日 金		11月米コア圏消費者物価指数
20日 月		
21日 火		11月米景気先行指数、11月米シカゴ連銀活動指数
22日 水		
23日 木	10月景気動向指数	11月米中古住宅販売、11月米耐久財受注、11月米個人消費支出・個人所得
24日 金		11月米新築住宅販売
27日 月		
28日 火	11月有効求人倍率	
29日 水		
30日 木	10月自動車生産台数	12月米シカゴ購買部協会指数

出所：11月26日現在、Quickよりアイザワ証券作成、予定は変更の可能性もあります

- ◆ 国内：1日に法人企業統計、8日に7-9月のGDP、13日に日銀短観、28日に有効求人倍率を公表予定。
- ◆ 海外：3日に米雇用統計、15～16日に米FOMCを予定。

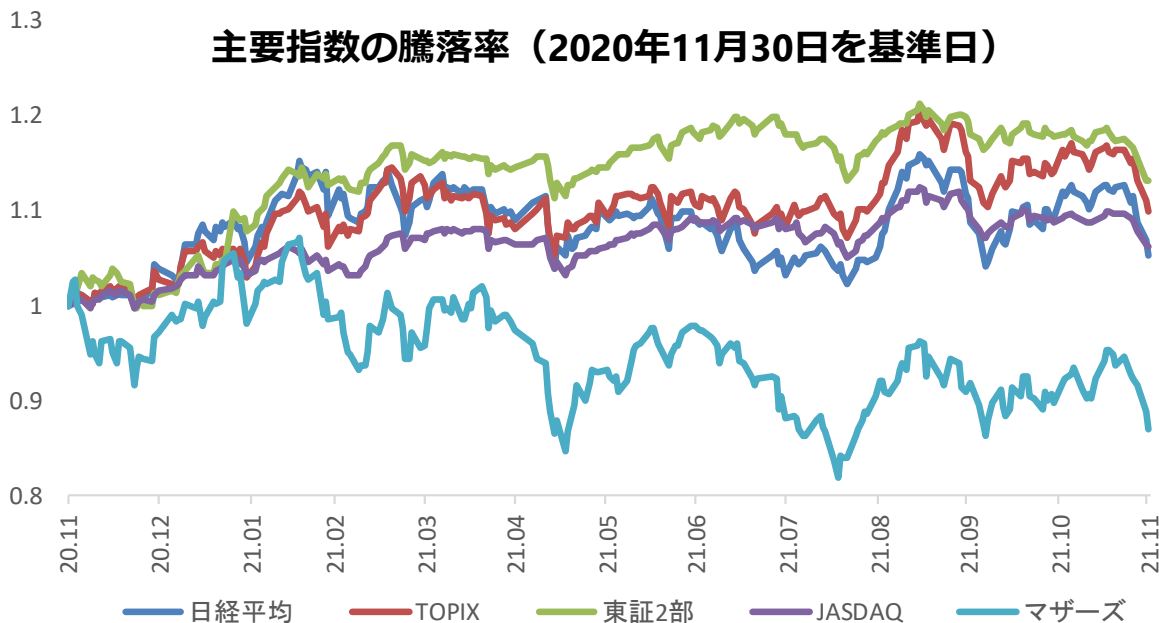
マーケット情報

円、ポイント、終値ベース

	価格	移動平均線乖離率(%)		騰落率(%)			年初来高値	年初来安値
		25日	200日	1カ月	3カ月	1年		
日経平均	27821	▼4.9	▼3.8	▼3.7	▼0.9	5.2	30670	27013
TOPIX	1928	▼4.5	▼1.7	▼3.6	▼1.6	9.8	2118	1791
東証2部	7357	▼3.6	▼2.8	▼3.9	▼3.9	13.1	7895	6590
JASDAQ	3885	▼2.5	▼1.4	▼2.4	▼2.4	6.1	4113	3723
マザーズ	1070	▼5.4	▼7.5	▼3.2	▼5.6	▼13.0	1320	1009

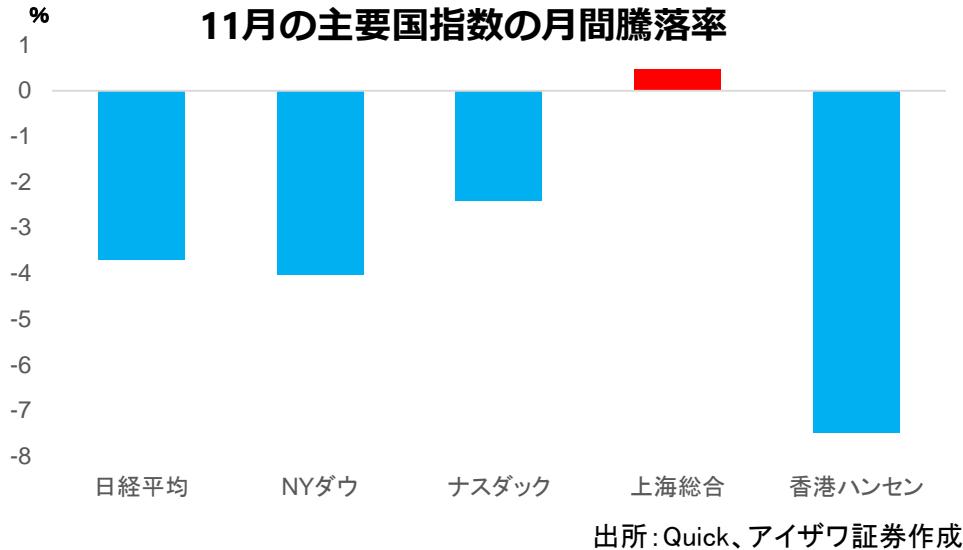
◆11月の東京市場では、主要指数は揃って▼3%程度の下落となった。日経平均は▼3.7%の下落となり、2カ月連続の下落となった。全ての主要指数で25日、200日移動平均線を下回っている。相場全体がやや調整色を強めているなか、株式市場全体を押し上げるプラス材料に乏しく、個別銘柄を物色する重要性がより高まっているといえよう。

◆昨年11月30日を基準とした1年間の騰落率のチャートでは、11月の主要株価指数は揃って調整している。なかでも今年に入ってからマザーズの弱さが目を引くところである。

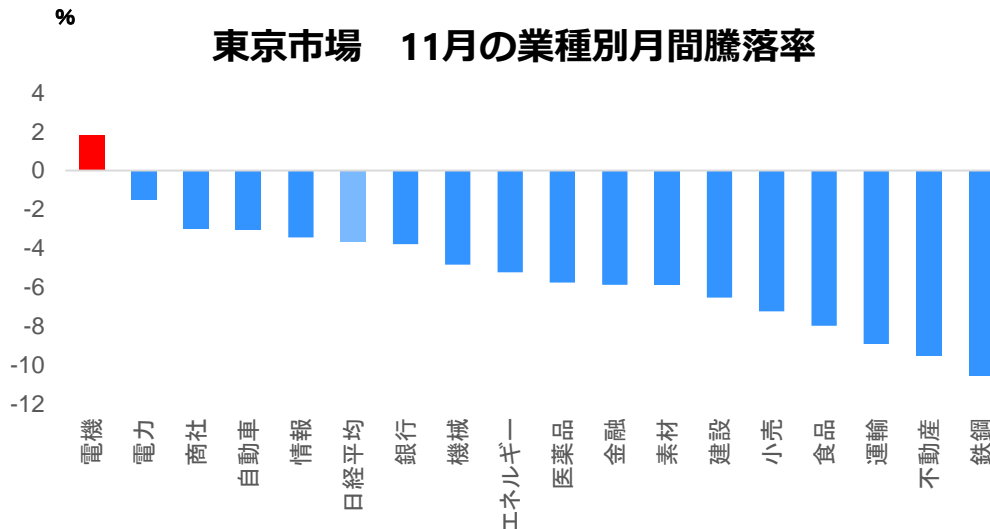


出所: Quick、アイザワ証券作成

主要指数の騰落率

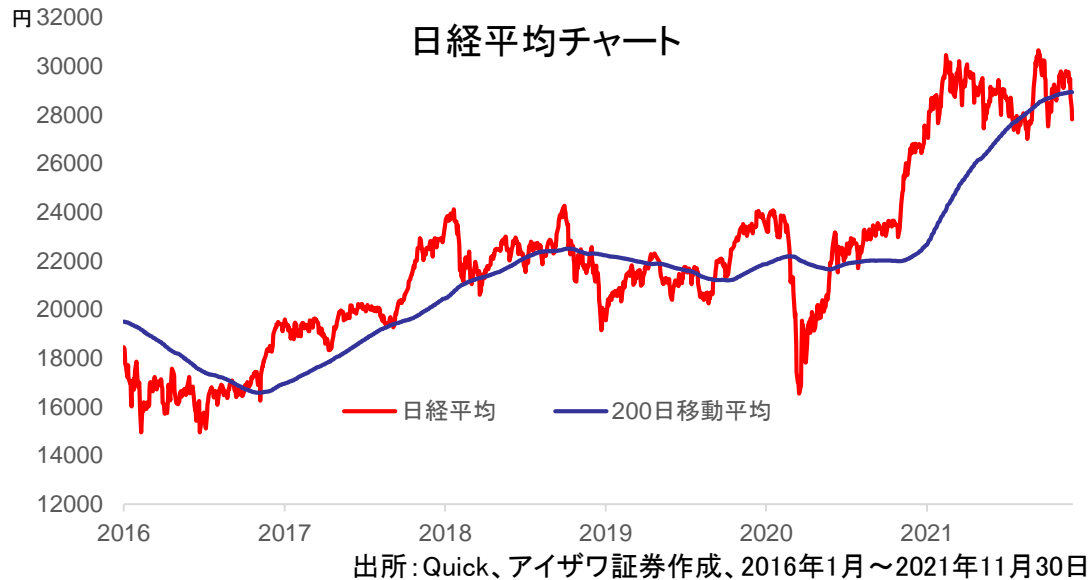


- ◆ 主要市場で調整：11月の主要国の株価指数は、上海総合を除き、軒並み下落した。商品市場でも11月上旬には84ドルを超える水準まで上昇したWTI原油が60ドル台半ばまで下落している。コロナ変異種による景気への悪影響に加え、米FRBパウエル議長の議会証言によって、米国の金融政策の正常化が想定よりも前倒しで進むとの見方が広がったことも相場にとってマイナス材料となった。

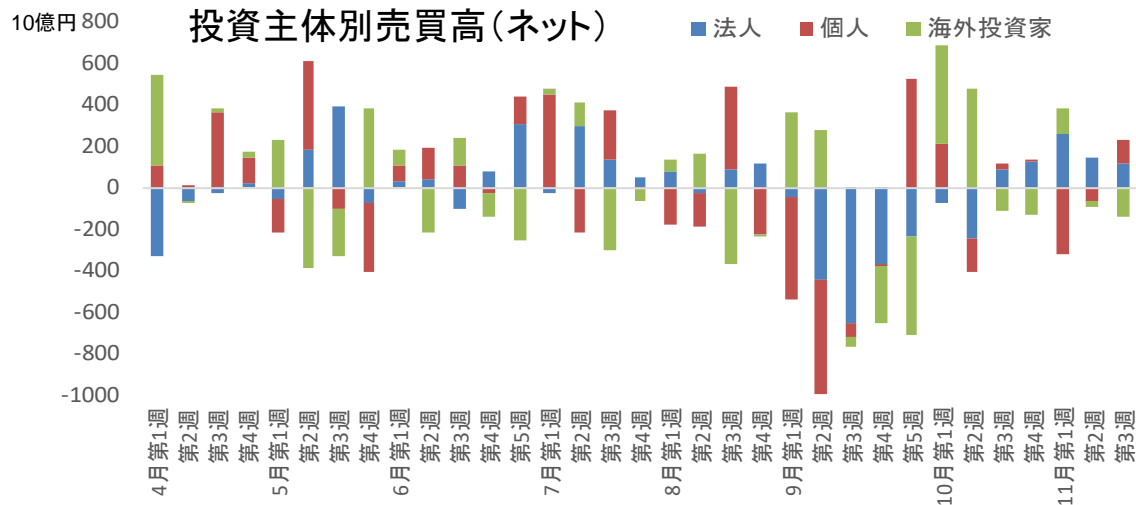


- ◆ 業種別では電機のみが上昇：11月の日経平均は月間で▼3.7%の下落であった。相場全体が弱いなか、業種別では17業種のうち電機のみが上昇した。下落率の最大が鉄鋼で▼10.6%の下落となった。下落業種では、不動産、運輸、食品、小売など内需関連が目立った。

日経平均と投資主体別売買高



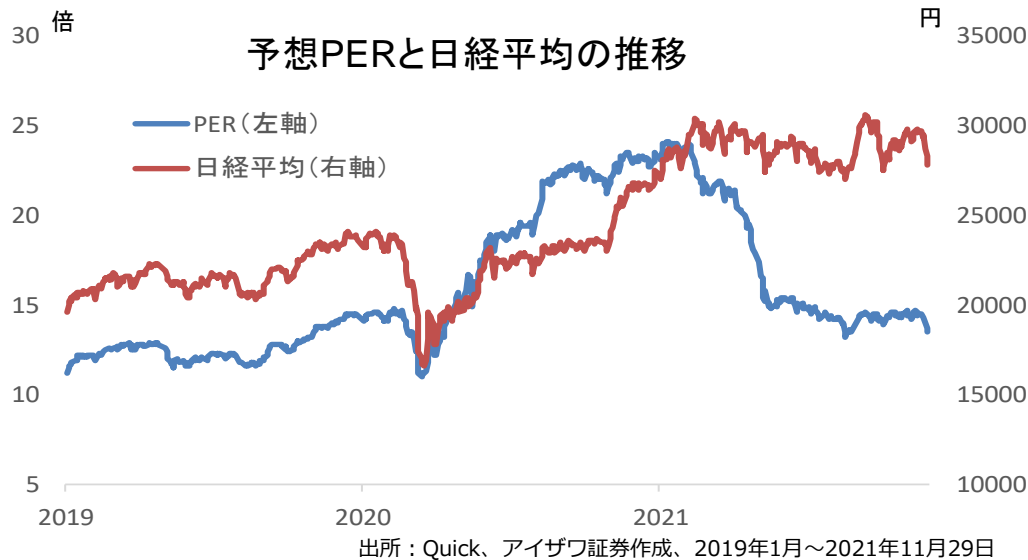
- ◆ **再び200移動平均線割れ**：11月の日経平均は、上旬から中旬にかけて200日移動平均線を上回って推移していたものの、下旬には調整が入り急減速したことによって、200日移動平均線を再び割り込んだ。新型コロナウイルスの変異株と急速に進んだ円高ドル安による企業業績の減速懸念が背景にあり、外部環境の変化を慎重に見極めたいところである。



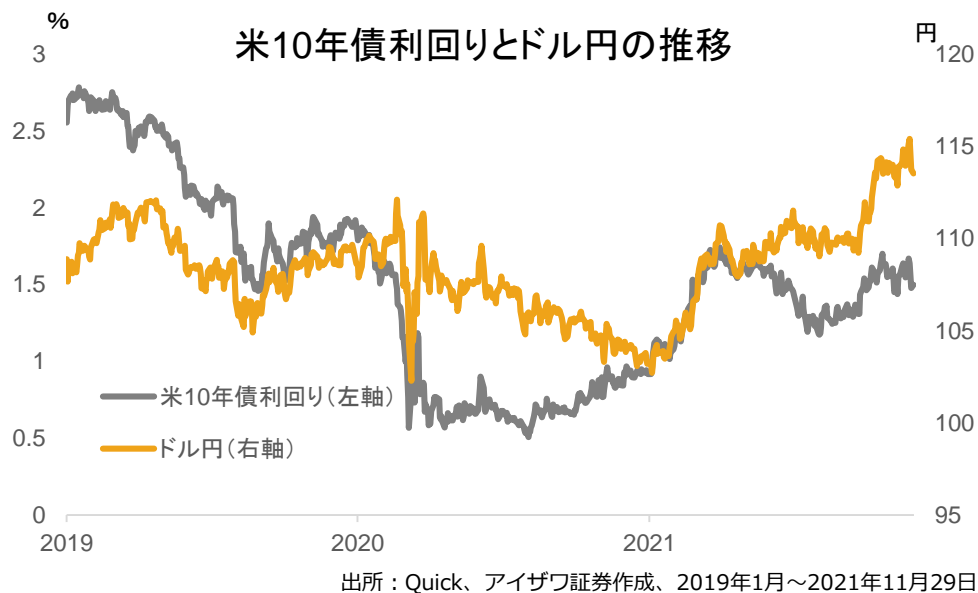
- ◆ **方向感を欠くなか、法人は買い越し**：11月の投資主体別売買動向は、第1週には個人の売り越し、法人の買い越しが目立ったが、第2週以降は方向感を欠く展開となっている。海外投資家はやや売り越し傾向であった。

出所: 東京証券取引所、アイザワ証券作成、2021年4月第1週～2021年11月第3週

日経平均のPER推移とドル円相場



- ◆ 失速して低バリュエーションが続く：11月下旬に日経平均は失速、3月決算企業の上期の企業業績が好調であったなかでの日経平均の下落であることから、日経平均の予想PERは13倍半ばにまで低下してきた。日経平均の低いバリュエーションが更に低下しており、株式市場では来期は減益シナリオを織り込み始めているといえる。



- ◆ ドル円は約4年10カ月ぶりの円安を迎えるもコロナの拡大懸念で円高へ：11月のドル円相場は米国における金融引き締めへの思惑から、一時およそ4年10カ月ぶりの円安となる1ドル115円半ばをつけた。しかしながら、コロナの変異種が南アフリカにて発見されるとコロナの再拡大懸念が広まり、米国の長期金利は低下、ドル円は円高が進行して月末は113円台前半の円高となった。

好決算も材料出尽くしで下値を模索

✓11月は上旬までに3月決算企業の上期決算がほぼ出揃い、内容的にはデジタル関連銘柄を中心に好決算であった。このことが好感され、11月の日経平均はザラバ高値で2万9960円を付けるなど3万円を伺う動きを見せてはいたものの、下旬にかけて新たな材料に乏しいなか、新型コロナの変異種によるコロナ再拡大の懸念が台頭したことによって調整局面を迎えて下値を模索する展開、およそ1ヵ月ぶりに2万8000円を割れて引けた。

企業業績に対してシビアな見方が続く

✓11月末の日経平均の予想PERは13倍台半ばまで低下している。この水準は、来期の企業業績の予想を横ばい、或いは減益と評価しているといえる。新たなコロナ変異種の出現はリスク要因として考慮する必要はあろうが、今後の企業業績について、株式市場はややシビアな評価を下していると見えよう。

材料不足→仕込みの時期

✓日経平均のバリュエーションが低下してきたとはいえ、株価を押し上げる新たな材料にも乏しいといえる。コロナの再拡大への懸念によって、内需の回復期待が後退した他、期待された円安効果が足元では為替レートが円高ドル安に振れていることから、剥げ落ちてきている。当面は株式市場全体が上向くことによる上値を狙うというよりは、来期以降に好業績が期待される銘柄の仕込みどころであるといえよう。企業業績の2極化は鮮明となっている。現在の好調な企業業績はデジタル関連企業が牽引しているが、来期以降もこの傾向が続くことが予想される。

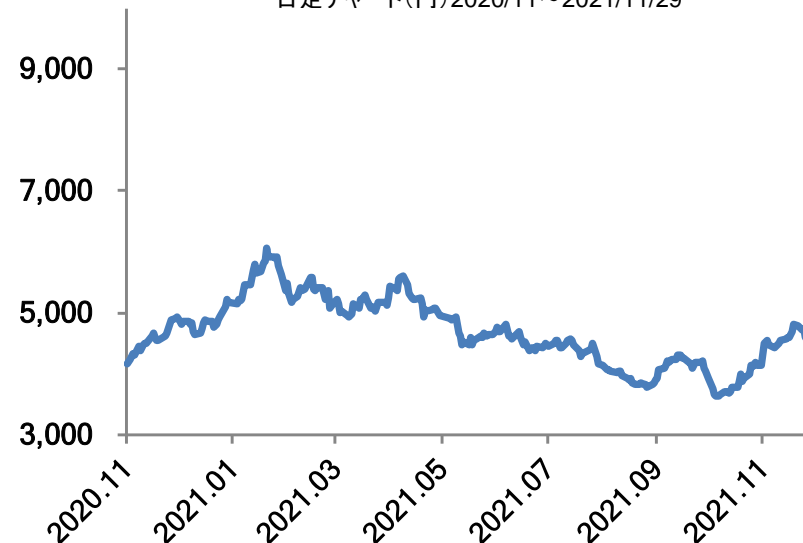
今月の注目銘柄

- ・ TDK
- ・ ルネサスエレクトロニクス
- ・ SUMCO
- ・ TOWA
- ・ 芝浦メカトロニクス
- ・ 三井住友フィナンシャルグループ
- ・ SOMPOホールディングス
- ・ 住友不動産

株価:(2021/11/29)	4,495円
52週高値:(2021/01/21)	6,080円
52週安値:(2021/10/06)	3,560円
予想PER	15.4倍
PBR	1.56倍
予想配当利回り	1.54%
時価総額	17,475億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/11~2021/11/29



- 磁気材料を軸にグローバル展開する電子部品会社。スマホなどで使用されるモバイル向け小型バッテリーで世界No.1のシェアを誇る。成長ドライバーのバッテリーでは、小型から家庭用向けなど中型へと事業を拡大している。
- 2022.3期上期（4-9月の6カ月）の決算は、売上高が前年同期比+29.4%の8941億円、営業利益が同+28.2%の800億円。上期としては過去最高を更新。（横山 泰史）

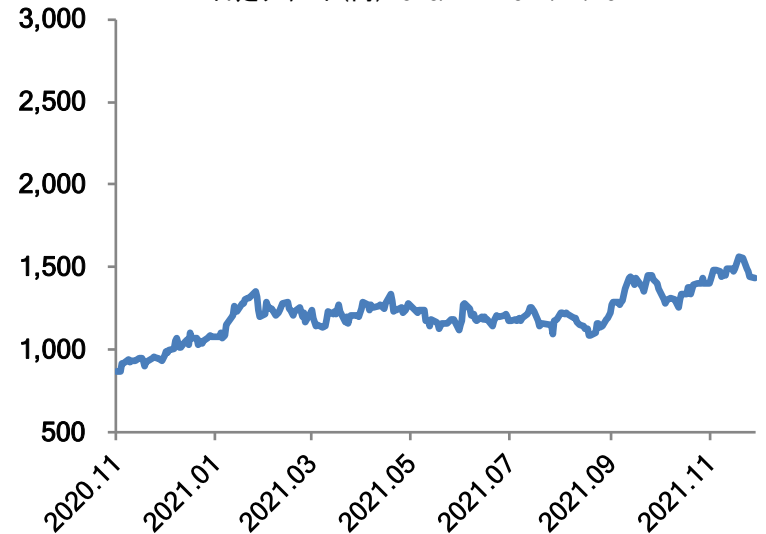
■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	13,630	▼1.4%	978	▼9.2%	958	▼17.0%	577	▼29.7%	152.4	60.0
2021/03 実績	14,790	8.5%	1,115	14.0%	1,219	27.1%	793	37.3%	209.3	60.0
2022/03 予	18,000	21.7%	1,570	40.8%	1,620	32.9%	1,100	38.6%	290.2	69.3

米国会計基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり、2021年9月29日に1株を3株に株式分割を実施、遡及修正済) アイザワ証券作成

株価:(2021/11/29)	1,429円
52週高値:(2021/11/19)	1,577円
52週安値:(2020/11/30)	928円
予想PER	—倍
PBR	2.65倍
予想配当利回り	—%
時価総額	27,711億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/11~2021/11/29



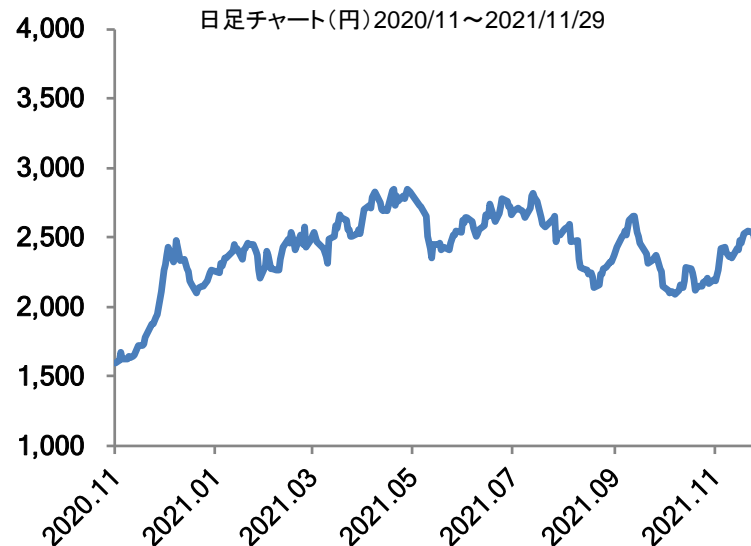
- 同社はNON-GAAPベース（一過性の利益や損失を除いた実力ベースの収益、ダイアログを除く）で営業利益を公表しているが、第3四半期累計（21年1-9月の9ヵ月）のNON-GAAPベースでの営業利益は前年同期比+93.4%の1942億円と好調。
- 今年10月にイスラエルで事業を展開するCeleno社の買収を発表。クロージングは今年12月末までに終わる計画である。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/12 実績	7,182	▼5.1%	62	—%	▼3	—%	▼63	—%	—	0.0
2020/12 実績	7,156	▼0.4%	651	—%	652	—%	456	—%	26.5	0.0
2021/12 予	9,776	36.7%	—	—%	—	—%	—	—%	—	—

国際会計基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり、2021.12期は未予想) アイザワ証券作成

株価:(2021/11/29)	2,454円
52週高値:(2021/04/30)	2,954円
52週安値:(2021/10/05)	2,031円
予想PER	20.7倍
PBR	2.54倍
予想配当利回り	1.46%
時価総額	8,593億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- 半導体向けウェーハ大手の一角。最先端のロジック半導体を中心に生産能力増強に向けた設備投資を積極化しており、2022年、2023年とウェーハ不足が顕在化するとみられる。
- SUMCOでは300ミリ半導体用最先端シリコンウェーハの増産投資を発表。来年初頭から建設投資を開始して2023年後半から段階的に生産を開始する。今回の投資では顧客とウェーハ価格の値上げ、長期契約が結ばれ、来期以降の業績改善が期待される。(横山 泰史)

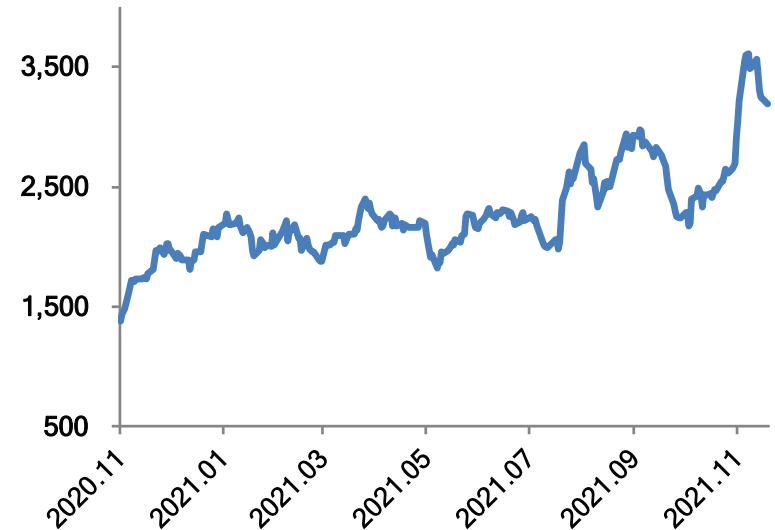
業績推移	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2019/12 実績	2,994 ▼7.9%	506 ▼40.5%	483 ▼41.8%	331 ▼43.5%	112.9	35.0
2020/12 実績	2,913 ▼2.7%	378 ▼25.2%	356 ▼26.2%	255 ▼23.0%	87.4	27.0
2021/12 予	3,329 14.3%	505 33.3%	476 33.5%	359 40.8%	118.6	36.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/11/29)	3,195円
52週高値:(2021/11/17)	3,740円
52週安値:(2021/05/18)	1,752円
予想PER	9.7倍
PBR	2.26倍
予想配当利回り	0.71%
時価総額	799億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/11~2021/11/29



- 高水準な受注が続いており、第2四半期（21年7-9月）の受注は205億円と過去最高を更新、21年9月末の受注残高は376億円であった。
- 半導体の製造工程にて使用されるモールドイング装置で世界シェアNo.1。米中半導体摩擦の影響によって、中国が半導体の国産化比率を高めるべく半導体生産設備への投資を積極化させていることから昨年秋以降の受注は高水準で推移している。（横山 泰史）

■業績推移	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	253 ▼10.7%	8 ▼13.3%	6 ▼31.1%	4 ▼58.0%	14.8	16.0
2021/03 実績	297 17.6%	36 345.6%	38 490.2%	26 622.1%	106.4	16.0
2022/03 予	500 68.3%	115 217.8%	115 201.1%	82 207.9%	327.8	23.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/11/29)	8,250円
52週高値:(2021/11/25)	9,000円
52週安値:(2020/11/30)	3,870円
予想PER	14.5倍
PBR	1.63倍
予想配当利回り	2.42%
時価総額	428億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所:QUICK

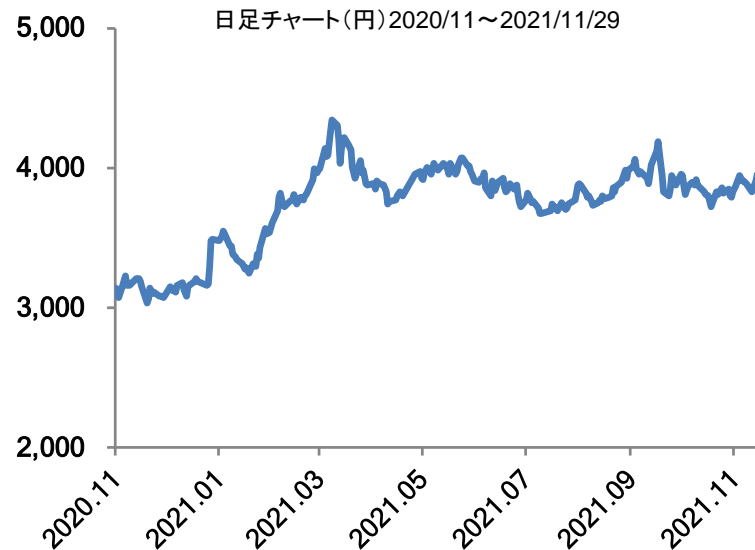


- ◆ FPD(フラットパネルディスプレイ) 製造装置、半導体製造装置などの製造装置の開発製造をおこなっている。半導体製造装置は前工程における半導体ウェーハの製造工程にて使用される洗浄装置やエッチング装置などを扱っている。
- ◆ 半導体製造装置では暫くの間、ウェーハ製造メーカーによる大型投資が低迷していたが、ウェーハ大手のSUMCOが新工場の建設計画を発表。(横山 泰史)

業績推移	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	471 ▼11.2%	31 ▼21.9%	27 ▼26.8%	19 ▼21.6%	440.7	110.0
2021/03 実績	447 ▼5.0%	29 ▼5.3%	28 1.8%	19 1.3%	446.1	110.0
2022/03 予	480 7.2%	42 43.7%	40 43.6%	25 26.9%	566.0	200.0

日本基準 (単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/11/29)	3,781円
52週高値:(2021/03/19)	4,354円
52週安値:(2020/12/01)	3,014円
予想PER	7.7倍
PBR	0.42倍
予想配当利回り	5.55%
時価総額	51,964億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部



出所: QUICK

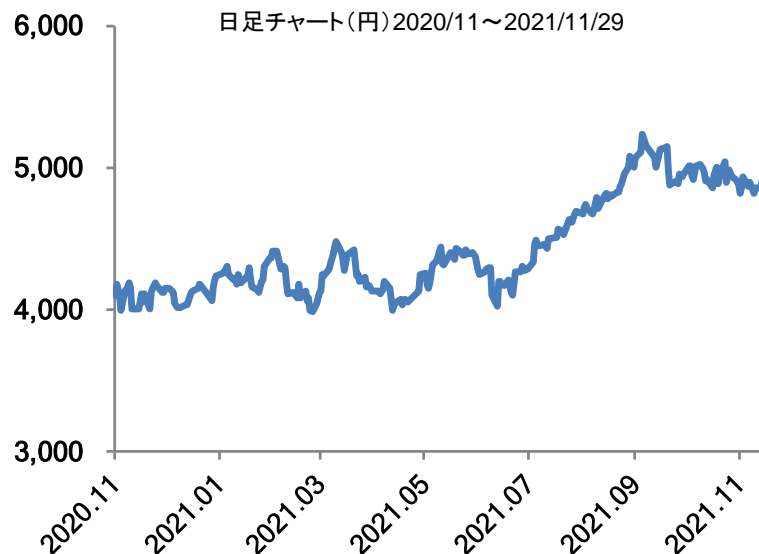
- ◆ 銀行大手（メガバンク）の一角、銀行、信託、証券、カード・ローンなどに展開。地域銀行、証券、リースなど事業再編、コスト削減・効率化を推進。
- ◆ 2021年4-9月期（2Q）累計実績は 増益、前年好調だった市場部門を除く全部門で堅調、与信費用減少と株式損益好転も寄与。通期会社純利益予想は増額修正、進捗率は68%。業績上振れを受けて、増配と自己株取得を発表。（水口 活也）

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	45,918	▼4.4%	9,320	▼17.9%	7,038	▼3.1%	511.8	190.0
2021/03 実績	39,023	▼15.0%	7,110	▼23.7%	5,128	▼27.1%	374.2	190.0
2022/03 予	—	—%	—	—%	6,700	30.7%	488.7	210.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/11/29)	4,699円
52週高値:(2021/09/14)	5,259円
52週安値:(2021/03/05)	3,943円
予想PER	9.1倍
PBR	0.76倍
予想配当利回り	4.46%
時価総額	17,542億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ 国内損害保険大手の一角、自動車や火災など損害保険が主力だが、生命保険や海外保険、介護にも事業展開。災害影響を収益多様化とリスク分散で吸収。
- ◆ 2021年4-9月期(2Q)累計実績は、増収・増益、新型コロナ影響の反動によって損害保険が改善、株式売却益も上乘せ。通期会業績予想は増額修正、進捗率は70%超、自己株取得も発表。中期経営計画ではROE10%が目標。(水口 活也)

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	37,603	3.2%	1,924	▼3.3%	1,225	▼16.4%	334.1	150.0
2021/03 実績	38,463	2.3%	2,150	11.8%	1,424	16.3%	397.4	170.0
2022/03 予	—	—%	2,670	24.1%	1,780	24.9%	510.5	210.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/11/29)	2,289.0円
52週高値:(2021/10/11)	2,564.5円
52週安値:(2021/01/04)	1,506円
予想PER	6.9倍
PBR	0.48倍
予想配当利回り	3.49%
時価総額	25,566億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ 国内生命保険大手、対面営業の生保が主力だが、特化型生保や損害保険、海外保険、資産運用にも事業展開。海外では、北米、豪州、アジアなどに子会社。
- ◆ 2021年4-9月期（2Q）累計実績は 増収・増益、新型コロナ影響の反動による資産運用の好転と米国子会社改善が寄与。通期会社予想は増額修正、進捗率は50%超。リスク分散による資本コスト低減と資本利益率向上に注力。（水口 活也）

業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	71,140	▼1.0%	2,183	▼49.6%	324	▼85.6%	28.5	62.0
2021/03 実績	78,278	10.0%	5,528	153.2%	3,637	—%	325.6	62.0
2022/03 予	72,320	▼7.6%	5,200	▼5.9%	3,490	▼4.1%	326.2	80.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり アイザワ証券作成

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3283号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）



株式投資の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大1,650円

コールセンター発注 約定代金が55万円以下の場合は1,650円、約定代金が55万円超3,000万円以下の場合は3,300円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。

本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。

結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。

執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。